





百十六

114
2

二二〇一三共一八九
長享二年七月

寺社雜事記附院家
大僧正寺務

海十人

大富川水船
支那通
本居宣長著

大亨二年七月日

第百九人
赤子

付院家

寺社雜事記左官署

大乘院

日出圖書

嘉慶二年七月 日

朱宣文
寺社教事訖
付達本
不復奉
手書

大義院

國立公文書館
National Archives of Japan

長享三年七月一日其小

庚申

一 見て今更沙汰せざる事無矣。余は常之云
一 週一年行へ其勢今方々高

一 治事は盡り

一 三口喰者中不珍らひ者無以待徳一席に
足る者多き。或言之少く、正徳は未だ
未だ可れ。其れども、余は取て三日未だ
未だ可れ。其れども、余は取て三日未だ

一 朝早以風と沙の如

一 例刻下の事年月下毛利氏の二事
海作事印出来ます。主候候水より
主、引立事多。君の御宿當て引立
為す半島えど三度度り。度日暮れ
而刻沙悟主、引立

一 万全

一 異聞特體事

一 雪義、重門中宿。鳥羽

三〇

一 丹波二社子の 嘴傳小

一 宮田成治源ノ義兼、多々齋在野夢田主
育江櫻。林雲中津波、傳多々重
草木沙耶歌、音風の音

四

一 黄雀移り南下ノ之奉、千萬の事半程
勿め哉。浦邊畫詩月夜大、從前御宇上
御難事不許而帝下。丁寧作下中作
御歌原下著上九處

五

一 濱野二社子の 千葉、
詔御達

一 濱野二社子の 千葉、
詔御達

一 黄雀移り南下ノ之奉、千萬の事半程
勿め哉。浦邊畫詩月夜大、從前御宇上
御難事不許而帝下。丁寧作下中作
御歌原下著上九處

一 萩原彦次郎根元中野又酒 三十七

114
8

今不快晴作事
未到此土

三

古

御一丸やわらかく

一卷之水甚特字又大有

一
水
卷
之
三

事事竟有其人。則某之形神，可不謂之亦無所有乎？

小豆山の御城をめぐらし
おまかせすがせん

孝子傳
卷之三

卷之三

一
沙翁威爾士志學論述稿
卷之二

一草金利用少佐復士麿

一四三四年八月某日

一事方吉行嘉慶二年八

一職能以經氣時事不無考究所
以至未可得而以爲主也此處事務
多至之甚以津中事尤不外乎其事

一茶店稿作事事事事事事事事事

事事

事事事事事事事事事事事事事事

一五五十八年正月某日

一總領事金利罕二年二月

水門町廿五番三号不列哥尼
拉特特金之大寫

十口業

一萬豪金利用參軍人高麗書面
在延平漢江左支流

一萬豪金利用參軍人高麗書面

新編後漢書 卷之三十九

考

一 望天子丸

一 滴水以除氣內之舊物方品作

一 住處有事言與傳之正本也
病氣之源上とり御市上勘へ向う
三十六事多々取次下及手心身
八向五國方多念念水頭胃丸

一 草木法華 羅華真言 宣教

一 魔羅 豊樂 懷安 宣教

水經

文選

一 杜子美

一 方言引上坦行

一 李太白詩古事記上卷下卷

一 握筆作時上卷下卷

一 興善指揮外傳作中止執持上卷

一 五十五事文入下卷作高山五十五

一 作五十五事文入卷作五十五

一 章句全集

考

ナニヲ

14
11

卷之三

往大一小草木生於山中為是年十月之和雨
旬是十一月既望之日今以正月左方後文字
右者也院內有二書在右室之舊居左行持命
同弟以手書其事於卷之九卷外另置卷之十
考而年在庚辰

此言下切

一
暮雲下遠行

卷之二

十一

卷之四

此中二月廿日少刻市正五十九
大吉年次丙子立春己卯月

卷之三

卷之二

北山集卷之二

國立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

114
12

114
12

卷之三

卷之三

十一

周易傳說上句也印

以盡其七祀也。其一之廟，則

才而暮年叶落人亡以固仁矣

十一

一
星
天
地
萬
物
之
靈
也
精
明
而
無
朕
萬
物
之
靈
也
精
明
而
無

李已矣
冰若
寒月

古今吃苦者相予故多有失者用一以取也
內移升火一桂附上河口水退前至之
一烹火化水一酒火二力制下子作
春處桂不公初即子同子子急一福子
り立子子向子双立草代全草子
天下一人全地地裁土而少故人
去一河口水退前至之酒火
水火相承不重不轻一酒火
至之酒火一到二味水一故一老树一青酒
全地人全之名高川流也秀玉也五

相之宗年方正河處多々在室六月
年歸ぐと予是モソトミニテ亦年中年回
公里ニテ自古丁ら一者と往來とす事年
相氣重まく油バタニ所ノ御ノリ限メ
と久う深元三年後活潑也可

高皇孫りり一宿ノ云東
多難相處念念甚め、王國一所山
同窓二三子宿下未至外老石門
多難の故天命三日而死之相處
別其處某處而居、弟亦嘗て
作行、かうアレ下書、前後不盡
事多難津路也、仍言相處也

一
少義事が如也、若葉に於て又用
考考外事、一ノ事にて何況之言
アリナリ、ハシマリ、ハシマリ
大才、ハシマリ、ハシマリ、
ハシマリ、ハシマリ、

一
高皇孫大矣、

1144

高麗參頭付銀五兩
一
支參头付銀五兩
上

支方東下

一
支方東下

廿八日壬午金算木印通鑄

一
支方東下

支方東下

支方東下

支方東下

一
支方東下

支方東下

支方東下

支方東下

卷之六

一
四
卷之三

廿三

一
代
以
爲
本
成
之
事
其
事
皆
在
法
則
往
往
不
能
行
之
所
謂
不
可
行
也

苏轼书三绝句卷之二

一
言りひづれ市事多々之身都也
之にリ有サニトシテノ間事也主立

廿四

一清秋子初、此刻は

書用生油一油管子亦又大又粗。常鑿孔於
管口以通氣為足。其上不復有事。

一
次
見
之
不
可
無
得

廿四

一浪三波乃力之大無窮也

一
次
序
文
集

114
16

升菴集

一男一女也。亦是活潑子。

國立公文書館
National Archives of Japan

國立公文書館
National Archives of Japan

八月一日

114
18

一 清元仁王册不批行書
ニキ
ノシテノシテ二

一 清一章わく本稿次第を考へ
一

一 清一章の様子生卒板以て一枚
亦清 欽 喜 義
高士ト大高士 芳 仁 猥

義

白帝元年上元

茅十卷

四十五卷

10) 茅十卷
茅十卷

方策

一 天寧公と寛永元不三二色ヒ。後
一 清清下宣是留清川サニ改整 行

金盆

三

一 清一章の口號

一 本稿

分

義

114
19

皆すちに其流を、右者小令か
の水流は東北西、而て所の事は、一ノ河
之為、是れ有事一處、
事者少々在三河、一ノ河、而作
主事の事者根本所、叶、
の少々、故、亦、三河、沙、
田、國、也、少々、國、不、少々、人、
其、一、所、主、間、源、丸、冒、海、野、
所、主、大、也、也、也、也、也、也、也、也、
事、主、大、也、也、也、也、也、也、也、也、
事、主、大、也、也、也、也、也、也、也、也、
事、主、大、也、也、也、也、也、也、也、也、
事、主、大、也、也、也、也、也、也、也、也、

國立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

Augt 20 1420

萬葉抄

一
叶下一本立身之法者其本也此叶
落之而本根也根者生之本也叶者
生之末也

一處事在於三國遺稿之卷二十三

四
文草

至正乙卯之大行皇帝之擧，壬辰
歲次己未年夏月，於中華書局
中華書局印行。此本上卷一、下卷
甲子人初刻印，乙卯年夏月一之。

方

一済一月也。年運事都見清
一信來。少人是本源的。立年也。言々也。
多々也。

一
亥年仲冬月三日
洪都
仰立
王雨

文

御事記

玄

一石事無事不卜の一事事以爲淺り、

一東山下に沙野長 村家事文

一久遠方旅之生不取事も多矣

一宿露夜處の宿事也少々也

吉

一済一身ヲカキ半身ノ事トテ

一道程事無事也猪子不采命也

日

一済一子の事

吉

一寛大行儀氣度の如氣化有難

一と事事行儀氣度の如氣化有難

化大行儀事す事有難也

沙野事あたらば名不二三事有難也

と事事行儀氣度の如氣化有難也

と事事行儀氣度の如氣化有難也

114
21

114
22

十日時々

一
今大通津之縣子譯同用石韻和定
矣布之三而事不以是
一
涉已夏后大古生也
子
海
海
海

一
此事固當。但亦相傳有
人之死。上之氣絕。而
以水澆之。而死。中尸而
後復活者。因斯而得之。
一
次方解之。李子云曰。二

士子車

三重藩主
三島直木

一 江戸の事は御用事、内裏の事は内則。
江戸に外で仕事する者は中絶金を乞う
所存の所へ用ひ、官事専門ト
居候りがまえ、差支候事の多也。

一 番目アリ。白石等アリ。吹下多岐
一五五矢。一ノ尾等を考り。あつて。山手アリ。
一巻す。シヤント。高麗等。其の事は。山手アリ。
一高麗等。高麗等。其の事は。山手アリ。
白石等。高麗等。其の事は。山手アリ。
吹下多岐。今。高麗等。其の事は。山手アリ。
白石等。高麗等。其の事は。山手アリ。

十三

士子車

士子車

一 壱ノ江戸の事は御用事、内裏の事は内則。
江戸に外で仕事する者は中絶金を乞う
所存の所へ用ひ、官事専門ト
居候りがまえ、差支候事の多也。

114
24

筆者方元より一トシ前
而後氣石
和水りナキ御用不外乎、アラモト
筆者方三千石岸田より相馬五ノマ

其後又復有
人來尋之

一
事あらじに立ち至れまゆめ
一
事山内沙木利 せんりうりゆうりゆ
て
事山内 沙木利 せんりうりゆうりゆ
ナ
ナラリの せんりうりゆうりゆ
幻
幻 流水 事山内 沙木利 せんりうりゆうりゆ

卷之三十一

卷之三

一
自卷之四下
卷之四上
此
內不外
家

大和物語

高麗國事外より之を爲す者有り
其事未嘗至る所用事不居し其如也
久遠事也大和中事有知近事無
多々年同拂今名何が之也
一西夷唐夷也山下者也高麗也
ト北戎境也山川也風雨也故其内
從事多不居也かの事也即ち也

大和

ト高麗事也其事也其事也其事也

東夷高麗也其事也其事也其事也
湯少り也多處也其事也アリ
不居事也

大和

ト高麗也其事也其事也其事也

一河出事也其事也其事也其事也
三種事也其事也其事也其事也
土山盡也之子成也之子ありセリ方
ニテケリ氣也

ト高麗事也其事也其事也其事也
一年ノ竹ノ葉上也竹子以角也
安樂也之子也竹子也之子也

114
26

おまかせ二四六
一 重きを失ひて
一 吹き屋の切手
一 来り物の本物
一 大内
一 玄蕃の御用事
一 妻の手紙
一 小野
一 重慶の本家
一 おまかせ二四七
一 桂園の御用事
一 沙羅の手紙
一 痛いと申すが
一 人手の十人
一 不病の手紙
一 おまかせ二四八
一 梅花の手紙
一 沙羅の手紙
一 おまかせ二四九
一 おまかせ二五〇

114
27三重繪
文治十一

同沙由里テアモト用事。所
アリ事。松下五郎が、
不法に御用事アリ。御言
此罪を免め。御用事
三十、猪又山ニ其三脣
シテ、中の事。御用事
御用事。御用事。御用事。
一未だ御用事。御用事。
一未だ御用事。御用事。

御用事。御用事。

一猪又山御用事。御用事。
猪又山御用事。御用事。
猪又山御用事。御用事。

一猪又山御用事。御用事。
猪又山御用事。御用事。
猪又山御用事。御用事。

一猪又山御用事。御用事。

114
29

れ等の事に生七日又施行。生毛の事
極りやうる事第一の計、向く之
を五日後解説して七日又施行。東洋
流派の解説は、向うの事、始めて三
流派の解説。

卷之三

卷之三

周易
卷之二十一
周易之卦象
周易之卦数

一
清
二
彩
三
朱
四
清

114
30

114
30

51

國立公文書館
National Archives of Japan

以手詠也或作歌也。此注之。
詠家不妄可也。一言以蔽之。是之謂
風。一言者。多有其事。一言以蔽之。非
少者。詠也。」後漢也。上之不齊。
平陽也。後之伯氏。平陽也。至一言。
數也。平陽也。一言。平陽也。是稱也。」

廿二

一也。豈能復以是為詩也。可見也。

「是之謂

一也。豈能復以是為詩也。可見也。
亦可謂之風也。」

己丑日

一矣。而下文若同。一言。謂之風也。
一矣。而下文若同。一言。謂之風也。

一矣。而下文若同。一言。謂之風也。

一矣。而下文若同。一言。謂之風也。

114
32

114
32

事事如是也。故曰：「知者不惑，仁者不憂，勇者不
懼。」此三者，豈二三子之學力所至乎？

卷之三

卷之三

卷之三

三月廿日
梅雨初晴
家慶奉上

四百一

指事之言，不以考之，則失其本義。

卷之三
初發一時見此處猶在古

卷之三

庚寅立冬先雨之翌

此後當奉手書。不復用此。此後當奉手書。不復用此。

長安評定司經義印
中華書局影印

九月一日

1143

一 潤仁王湘布被燒、將行、復說時
翁札數件、二叔、平生、坐、
佛子送來、依、行、中、持、
物、將、送、出、年、十、月、芳、之、家、亦、善
評、是、至、一、地、也、狀、更、如、其、年、而、此
語、常、也、れ、れ、よ、く、い、く、れ、れ、
持、手、て、う、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、
彼、有、等、三、國、一、西、迄、不、去、行、
不、去、不、到、す、ぐ、不、知、之、可、

一 遺書所遺宣尼

一一一

一 略

一 水、當、於、充、刻、

二

一 善、厚、久、人、丁、北、事、下、每、下、日、今、
五、方、之、流、火、氣、極、不、至、及、早、

一 芳、往、程、ヲ、ツ、リ、矣、方、初、見、不、及、

其寫りは既往の事へとせば、

其筆意りまし。

一西園筆草文立井羽集・114.

書卷を中止す。而して之を
書中古事記の後半に置く。次
第に左叶上に落す。江波と上野
に主觀れ。筆子は微
中一文字の如き。其筆意り書本松
と紙の筆立井羽集。

其筆意り書本松

三

其筆意り書本松

一車前山方の木屋幸用事中止
一白石本多義筆。其筆意り書本松

四

其筆意り書本松

一不動院御内ノ写真。其筆意り書本松

一未申言極手極意。其筆意り書本松

其筆意り書本松

平賀行方の事

行方の事

行方の事

行方の事

行方の事

行方の事

行方の事

行方の事

行方の事

114
35

リ未だ者ありと考へ候竹之太翁
君故坐　牛毛　赤星房西里房江
山若水移所奉應セモアシナレ、牛毛
内に移ヒハ移アリ也同牛毛半九
又トヨリ所也或移アリテ子孫奉化云
不覺シテニシテ農圃

一新都坐行雲多一育月華露
三月中ノ人有之而當是之處
多竹也、一束一株形如竹也
一ト二束又以竹子之處也然叶翠厚

柱ノ御下、形、夜、御、初、事、リ、等
今長立之、一柱トガロ

一内山之内与柳之栗丸百十栗半ト言
得言是也、名之ト宣教ノよ五ノノ
音カナサキリ

言

一東北に住市、立金木手ノリ
立木ヨリサクナムト、一常清
通也が該通尔當は杉子便下
往待徳上トドリシケンヤモ

參照前文

一 文書は今中身力加乃仁王出事
乍りし立候が平作平不候。店侍。
名所宿者亦一酒飯よび
此處に就く行。貴用事
古事記中五印。又事一印を
内官公歩方。是處在三井。

日付

一 甲子一月十九日

一 貴用事一書。近半。可聞

一 九月廿八日
前文

一 附書

一 港を六三由五。今不候。行
至多間。ゆうゆう

一 番の事況に因る事。本物
其の事況をもつて向う

一白石庵山手より二事奉すと二章又ト法山戸
一坐し久松年子侍其老僧行き一宿食
一下午取テリ先用後改喫歎竹物也

一薦行持美事至く以ニ方一立身

一時被り所の候よつたり跡去候り重參

一詔作山病し別りよ多以能之

一近ニヨリ當社家者に書存傳棄便便
一辛之不吉打灰革之以多至著三々レシ

一外事ノ一方右手而風邪左半流氣一亨
一笑方し體年幼勿考候内金音沙沙翁者

一未外風邪ノ沙沙翁等ノ御前中
多事有清々寺社為人也一酒ノ傳委
信宿一夜乃可解手其事一ト加瀬作
ト熟天教會公家事不全一故右中古而
是亦志向印門文氏金師（桜川作）

一誓三入寺

力

一諸事全請周儀

一川口三月未達

一薦行持美事至く未受達下付送

一書存傳委

114
39

聲をあそぶ事

一 声等子納りと申す、

一 般人相公に聞事あり其處に申す、今

一 年半前より今ま此年半

一 遠至る

十日

一 月の内に

一 月の内に

一 言事外に聞事類事に申す、

一 月の内に

一 著事、所詮事と申す、

一 事外に聞事類事に申す、

十一月

三日

11440

一月三日

人情事草書傳風吹之手
天長詠遠入手在手多神
萬福寺少僧手西元之毫
老翁手十三白奈手人海津大晴
而何手トリ不支之手行手
見手手白手行手手手手手手手手
手手手手手手手手手手手手手手手手
手手手手手手手手手手手手手手手手手手
手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手
手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手

其時の事草書手手手手手手手手手手手手手手手手
此手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手
諸事傳英手手手手手手手手手手手手手手手手手手
手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手
手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手
手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手手

一

大亨書宣和留三文手手手手手手
它手手手手手手手手手手手手手手
元又之手手手手手手手手手手手手
手手手手手手手手手手手手手手手手

國立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

114. 24. Oct
114. 24. Oct
114. 24. Oct

吉川有元の筆を以て此の文書を記入する
本多三郎の筆を大庭の跡とす。

故國風流未盡
子雲賦筆無人繼
此作一回努力取次充之也

萬葉集卷之三
五言歌
引一章歌
下
懷舊
及歌

卷之三

۱۷۳

114
42

おまへをすまひておとづれ

一中島はくはくとこゝのまゆ

一富翁が田舎者十人驚く

同喜氣寫るに至る野處外方信是

年月日年月日年月日信是

事行ひ故にかく

かくはくはくとこゝのまゆ

一川川一砂

一壁壁下に立つてはまひと

一立

一草

一金用ひてか

一桂木の木希三

一事次第に三木の木

可言ひにいふあ木

七木の木

一木沙羅木ナシニ

西山房

一 さへも爲用思ひ乍ら まほすとて

ゆきやなま川

物事成程事事は運んで、従
沙羽房とお前年(?)仰仁王押札
成程事事は運んで、従
不強此非く文、未定ヤリノハ
相送本ウモウアリ、
相送本ウモウアリ、
九月、賀多義和

嘉慶四年

一 事事は運んで、従
事事は運んで、従
事事は運んで、従
事事は運んで、従

一 謝一之か一之はナ合出で、
一 謝一之か一之はナ合出で、
一 謝一之か一之はナ合出で、
一 謝一之か一之はナ合出で、

114
45

得主の秋葉原に止ま

一 落成用ノツ合ニシテ吉宗下ト

引初迄ニ付シ

十方

一千九百零五年三月

一千九百零六年正月

仁王門塔ノ金剛坐塔

一 墓ノあゆ木手ノ木子也

森近徳吉同里

一 二三一書ノ事也

一書ノ事也

ナガ

一 田代治町前半之

一書ノ事也

又未即入

大吉並木に川下の御手

御供

九月一吉在サカニ宣奉

江と太師之信給し。

一 お市春茂佐長安 大師門山ヨリ移幕
詔

一 道正齋より年勅奉 因慶秋景之
事又 廉春移付 体差 異和ト嘉賀

一 諸事不司仕合事

大吉

一 増玉子也 桂暉堂三元

日暮

一 叱り往々不平全無 以年漏明ノ
左不前之也 以年漏明ノ 宮町有ノ由
右不前之也 以年漏明ノ 宮町有ノ由
河内郡赤井村ノ山口ノ山口
梅丈春永通之竹取古事記山口ノ山
國ノ山口山口山口山口山口山口山口

大考

114
47

志す。御用事。之に付属する事

東山以西の事。此門跡が手て

河内守重義。相模守重義。之に付

属する事。之に付属する事。

高師り。桂守重義。之に付属する事。

不詳。不詳。

一括。金井某三事。

金井某三事。

千賀全昌。立野忍也。之に付属する事。

ちきやく。立野忍也。之に付属する事。

西園寺。柳松。柳原。重義。

佐藤利之。柳原。之に付属する事。

竹田。下野守。高氏。之に付属する事。

扶桑派。二子。之に付属する事。

以故。栗入。森義。之に付属する事。

之に付属する事。之に付属する事。

山本。今治殿。之に付属する事。

武田。之に付属する事。

元。之に付属する事。

言葉をもさなけりまう

人をも事なしに死んでし
言ひて命に上りては手せ
物をもいぢりてはゆめの
情の者

一
立身するに言葉を聞か
る事無くして

人立人是寺町三十九
西下寺やれり是寺
九十九

其處立角川口
方舟向國子
也國子主易
主傳音鉢あつ

サ

一
其處立音鉢あつ

三
四

114
49

丹子
明子
喜子
喜子
喜子

サニ東

一 朝一暮かく大内侍

一 郡海至多七千門一ノ森

着夷邊

原夷使

一 千多角入子母口

長者用賀

時事

一 佐々木高麗主事

サニ

一 捨子吉野山沙土所、有子

中村市町、不西之山、

中村市町、不西之山、

中村市町、不西之山、

中村市町、不西之山、

サニ

一 里一壁の世界、傳承地主

一 重高處に植木、アトキ等、見

界下、以故名、其カ二株、此山

至る處、其の名、傳承地主

傳承地主

事の入射し。幸ひに以て
立場を至り得。而も幸いに。角田兄弟等
在籍若者。幸運に蒙り。二度而目付。忠島龍
不。事務久々。大変な事でござります。

今月未定。次月

令年正月

内閣政要

内閣准義

某酒毒氣

某酒毒氣

内閣元長

某酒毒氣

内閣准義

某酒毒氣

内閣准義

多喜多不方樂樂子先
社天洛吉大莫樂樂也
就留於下落子哥

一歌教歌 善者之早事

作摩摩木也方桂歌可大鱼此歌也

善者之歌也勿歌也

善者之歌也勿歌也

善者之歌也勿歌也

一善者之歌也勿歌也

用歌上方歌也

廿九

廿九

一也三九十九也亦非也

廿九

廿九

一威者之歌也勿歌也

廿九

廿九

一也者之歌也勿歌也

廿九

廿九

一 桂元も高麗人也。北一子。號天皇。字
とく。り。名。漢子。山。山。一。音。
カヤ。處。多。タ。ナ。タ。是。多。ニ。カ。

ト。山。山。

一 久。は。主。山。而。碑。有。也。一

也。

一 事。有。中。三。歲。有。是。也。人。却。參。
此。時。在。今。多。已。去。也。以。是。年。來。
參。之。一。之。年。也。故。有。是。書。日。志。考。也。

ソ。若。主。川。國。司。利。田。奉。也。多。情。主。
若。り。主。參。公。持。事。ア。リ。之。情。如。レ。
今。主。若。持。事。

サウ

一 事。有。中。一。歲。有。是。也。人。却。參。
此。時。在。今。多。已。去。也。以。是。年。來。
參。之。一。之。年。也。故。有。是。書。日。志。考。也。
ソ。若。主。川。國。司。利。田。奉。也。多。情。主。
若。り。主。參。公。持。事。ア。リ。之。情。如。レ。
今。主。若。持。事。

14 right side
14

14
54

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

卷之三

卷之三

卷之三

卷之二

卷之三

三易全之舊章人奏擬准認之海防處存

卷之三

吉田の花を西東洋水海
七軒をモタタ向テラヘニシルト行

力の争ひあつて、半りは死んでゐる。

卷之三

義和と代々の
足の法

مکالمہ احمدیہ

1. *right* *left*
2. *right* *left*

197
197

~~Very~~ ~~very~~ ~~very~~

卷之三

Signatur

四十九章

114
55

14.
56